

「めんどくさいはリサイクルの敵」

本庄市 四年 吉野 恵留夢（よしの えるむ）

八月十七日、私はさいたま市にあるリサイクル・プラザJBに見学に行きました。そこでは、お姉さんが画像や映像を使いながら、センターでの再資源化への工程を私たち子供にも分かりやすいように説明してくれたり、ふだんは見ることのない工場の中を見学したり、できあがったスチールペレットやアルミペレットを実際に見たりさわったりする事ができ、楽しくリサイクルについて学ぶことができました。

私がこの日、一番心に残ったことは、お姉さんが言った「一本飲んだら一本分別する。」という言葉でした。その一言を聞いた時、私は思わず「はっ」としました。そうだ、こんな簡単な事なんだと初めて気がつきました。今までも私はゴミを捨てる時は、きちんと分別して捨てていたけれど、それはお母さんや、周りの大人の人たちに言われるからで、正直に言うと、ちょっとめんどくさいなあという気持ちがありました。でも自分が飲んだ一本を捨てる時にちょっと気をつけて分別して捨てるだけなのだから、だれにでもできるし簡単で、ちっともめんどくさい事ではないのだなあと思いました。

しかし、残念ながらJBのリサイクルセンターに運ばれてくる物の中には空き缶やペットボトル以外のゴミがたくさんまざっていて、カサやカン電池、電球、なかには赤ちゃんの使用済みの紙オムツ、わりばしなども多く入っていると聞いてとてもおどろきました。自動販売

機の横にあるゴミ箱なのに、なんで色々な物が捨てられているのかふしぎに思いました。

そこで私は、そういった分別をしないでゴミを捨ててしまう人の気持ちを考えてみました。私が思ったのは、そういう人たちも心の中ではきっと悪いことをしていると反省しているんじゃないかなあということです。みんな頭や心の中では、ここには捨ててはいけないのだと分かっているのに、ついめんどうになって、自分だけならいいだろうとか、一つぐらいなら大じょうぶだとか思っただけで捨ててしまふんだらうなあと思います。でもそれが十人二十人とたくさんの人が同じことを思い同じように捨ててしまふと大変なことになってしまふのです。

反対にみんなが、めんどうだけど自分一人でもきちんとして分別しようと思うことができたとしても良い社会になると思います。めんどくさいという気持ちはリサイクルの敵です。私の心の中にもチラッとあるけれど、そんな時はセンターで働く人たちの手選別の様子を思い出したりして、いっしょうけんめいリサイクルに取り組んでいる方たちへの感謝の気持ち、そして自分もリサイクルの仲間なんだという心を持って、少しのことでもめんどくさがらずにルールを守って生活していきたいと思えます。